

【多摩丘陵・私の出会った生き物たち 7】

< 狸のいる町 >

桑原紀子

9月半ば過ぎの朝、二階のベランダで洗濯物を干していた私は、アッと息を呑みました。庭を一頭の狸が悠然と通っているのです。

猫より一回り大きな身体にふさふさした尻尾。茶、黒入り混じった艶のある毛並み、なかなか立派な狸です。見下ろされているのに気づかず、玄関のフェンスまで行くと家の猫がするように、フェンスの下から道路を窺っています。洗濯物を放り投げ、私はすぐ狸の後を追いました。道路に出て見るともう影も形もありません。道を渡って斜面の草むらに入ったのでしょうか。

狸と出会うのは数年振りです。多摩丘陵の狸に興味を持ち、数年間狸ウォッチングを続けた私は、元気に生きているんだと、嬉しさがこみ上げてきました。

我が家は農家の裏山に隣接しているので、山から庭に下り、通り道として使っている様子です。裏庭には柿も落ち始めています。狸は雑食性ですが柿が好物で、林の中にある溜め糞には、



秋から冬にかけて沢山の柿の種が残っています。トイレの場所も決まっています、しかも共同トイレです。数頭が使う好みの場所は大きな溜め糞場になりますが、糞を食べるセンチコガネがどんどん消化していきま

ず。狸は雑木林の餌場やねぐら、溜め糞場などを巡回しながら暮らしています。5月頃出産し(赤ちゃんはヒュンヒュンと鳴きます)、秋には子狸は独立して新しい棲みかを求めて出て行きます。その時緑地が道路で分断されていると、車にはねられる事があります。秋に

は狸の事故死が多いのです。

里山に住宅地が作られ、狸と人間の生活圏が重なってきています。基本的には狸は夜行性なので、日中出会うことは少ないのですが、地域で共に暮らしていると、今朝のような嬉しい出会いもあるのです。

少なくなった多摩丘陵の野生動物、狸が、雑木林の中で、いつまでも元気に暮らしてほしいというのが、私の心からの願いです。